



## ～ピーナツ豆腐～

### 材料 (約4～6人分)

生の落花生 (ピーナツ)  
…………… 1カップ  
サツマイモのでんぷん  
(かたくり粉、くず粉でも  
よい)…………… 1カップ  
水…………… 6～6.5カップ

※砂糖みそや、梅みそな  
どで食べる。

### 作 り 方

- ①ピーナツを一晩水につけ、薄皮をむく。
- ②①に、水を加えてミキサーにかけ、さらしの袋でこす。
- ③ピーナツの絞り汁を6～6.5カップ鍋に入れ、でんぷんを加える。
- ④木しゃもじで、とろんとなるまで中火でよく混ぜながら加熱する。
- ⑤火を弱めて30分以上練る。練れば練るほど、やわらかい豆腐ができる。
- ⑥流し缶などに移して冷まし、固まってから切り分ける。

ピーナツ豆腐は、ピーナツにサツマイモのでんぷんやかたくり粉を混ぜて作られているもので、栖本町内では主に法事のときに食べられています。つやのあるプルンとしたピーナツ風味の豆腐に、お好みで砂糖みそや梅みそをつけてお召し上がりください。

提供：市食生活改善推進員協議会

## 現代に息づく歴史の証

天草コレジヨ館開館20周年・  
天草キリシタン館オープン記念シリーズ③

### 天草・島原の乱①

天草がキリシタン大名・小西行長の支配地になると、キリスト教の信者も増えていきました。しかし、行長は関ヶ原の合戦で敗れ、天草は肥前唐津の寺沢志摩守広高の領地となります。その後、江戸幕府が慶長18(1614)年にキリシタン禁教令を出すと、広高はキリスト教信者へ拷問を行うなど、弾圧を強化します。このような中、寛永10(1633)年以降の凶作で、天草や島原の人々の生活はますます苦しくなったことから、一揆への機運が高まり、ついに寛永14(1637)年10月、天草四郎時貞を旗頭に据え「天草・島原の乱」が勃発します。現在の有明町大島子で初戦を迎え



▲原城攻防戦を描いた「島原陣図屏風」(複製の一部)  
(天草キリシタン館所蔵)

たこの戦いは、一揆勢が優勢に進め、12月には3万7,000人が島原の原城にたてこもります。一方、幕府軍は12万5,000人の大軍で城を包囲し兵糧攻めを展開。翌年の2月27・28日、幕府軍の総攻撃で一揆勢は全滅し、天草・島原の乱は終結しました。

「煙めく人たち」の取材でおつかがいした松本さんのご自宅。上津浦川の河口沿いにあり、海や川の流れが運んでくる風が、開け放しの窓を吹き抜けてとても心地良かったです。そして、その風に揺れる風鈴の音とセミの声。しばし仕事を忘れ「日本の夏」を堪能してしまいました。【素】

先月の健康診断で、昨年よりも体重が増加していました。最近お腹まわりが気になっていたので、こんなに体重が増えているとは…。そこで、日ごろのぐうたらな生活をあらためて、ここに「減量大作戦」を宣言しようと思います。作戦成功のあかつきには、皆さんにご報告します！【海】

盆に毎年恒例の「同級生ソフボール大会」が開催され、隣の行事ですが毎年参加しています。ただ、私たちのチームが最高齢、シヨックでした。実力と体力と髪の毛はないのに、やかましさとでかい態度と打ち上げでの元気だけはある始末。熊に会えなかったのは残念ですが。【凡】



編集  
後記